

小・音楽	仙北町立北小学校	照井 政裕	No.7
表現と鑑賞の関連を図り、児童が豊かに感性を働かせながらより美しい音楽表現をめざす、教材の提示と指導の工夫			

第6学年 音楽科学習指導案

指導者 照井 政裕

1. 題材名 「きれいなひびきで」

2. 題材の目標

- (1) 人の声の特徴を聴いて美しさを味わったり、いろいろな楽器の音色を生かしたりして、美しい響きで表現することができるようにする。
- (2) 二部合唱・三部合唱の響きを味わって歌うことができるようにする。

3. 児童と題材

(1) 児童について(23名/男11名・女12名)

学級の児童は、歌声が全体的に比較的きれいで、澄んだハーモニーを響かせることもできる。また、どの児童も合唱練習に意欲的に取り組むこともできる。ただ個々の声の響きという点では課題もある。器楽演奏に関しては、本学級の児童は、4年生時からバイオリンを使った合奏を楽しんできており、この頃はボウイングによる音色の違いにも気を配るようになってきている。また、毎年、郡市の小中学校音楽祭に参加したり、昨年度はアトリオン音楽ホールで演奏(合唱&バイオリン合奏)をしたり、今年度は荒井雅至氏(アトリオン室内オーケストラ前コンサートマスター)と一緒にバイオリン合奏をしたり、と音楽活動の経験も比較的豊富である。

4月に行ったアンケート(「大曲仙北音楽教育研究会」作成)による児童の音楽の授業に対する意識調査では、下表のような結果が得られた。(抜粋)

	大好き	好き	好きじゃない	きらい
音楽の授業	5(男2/女3)	14(男5/女9)	4(男4/女0)	0
・歌うこと	4(2/2)	15(5/10)	3(3/0)	1(1/0)
・演奏すること	8(2/6)	12(6/6)	1(1/0)	2(2/0)
・鑑賞すること	11(5/6)	11(5/6)	1(1/0)	0

概ね、音楽が好きであると捉えられるが、「好きではない」と考えている子供達への適切な支援や音楽の授業が「大好き」になるような手だてが必要であると考えている。

(2) 題材について

子供達は総じて美しい旋律を持つ楽曲に強い関心を示す。同時に、高学年という段階では、「響き」の美しさへも憧れや興味・関心を示す。特に、ハーモニーが生み出す「響き」には強い関心を持つと感じている。

「響き」には、「一人一人の声や個々の楽器の響き」と「それらがバランスよく重なり合った時に生み出される響き」の両方がある。響きの美しさは、その両方が関わり合って生み出される。本題材では、この「個々の響き」と「重なり合う響き」の両方を、聴き味わったり音色やその組み合わせを工夫して表現する活動を通して、響きの美しさを感じ親しむことを目標にしている。本学級の児童にとっては特に、「個々の響き」に対する意識を高めるためにも重要な題材であると捉えている。

メディアで伝えられる現代のポップス音楽等では、ややもすると独特の旋律や強烈なビートが強調されがちである。ハーモニーや響きの美しさに関心を持ち始めているこの時期に本題材を扱うことは、今後、より豊かに音楽にふれる生活やその態度を育むという意味からも、大事なことであると考えている。

(3) 指導にあたって

児童は昨年度、滝廉太郎の歌曲を聴き味わったり、「星の世界」を[三部合唱]と[バイオリンとリコーダー]による合奏で表現したりした。児童は、この学習で声の響きに興味を持ち、自分達でもより美しい響きをつくり出そうと意欲的に取り組んだ。実際に、美しい響きをつくり出すこともできた。

本題材では、この経験を生かしつつさらに発展的な学習活動をしていきたい。具体的には、個々の響きをより充実させるための学習にまずは重点を置きたいと考えている。本学級児童の場合、一人一人の声がもっと響けば、全体での重なり合いの響きも一層豊かになり、そこから得られる感動も大きくなるであろうと考えるからである。

学習活動では、一人で歌う活動を単に多くすることはせず、「全体での響きを大きく豊かにしよう。」をめあてにして取り組ませる中で、個々の響きに対する意識を高めたいと考えている。そのきっかけとなる導入では、プロのソプラノ歌手を招いて独唱の鑑賞をさせたいと考えている。

学習活動全般を通して、自分達の演奏を録音し(MD)それを聴いたり、範唱・範奏音源と聞き比べたりする活動を多く取り入れたいと考えている。

4. 教材

- ・[山田耕筰の歌曲]から「この道」「赤とんぼ」(鑑賞教材)
- ・「ふるさと」 作詞：高野辰之/作曲：岡野貞一
- ・「風を切って」 作詞：土肥 武/作曲：橋本祥路
- ・「広い空の下で」 作詞：高木あきこ/作曲：黒沢吉徳

5. 全体計画 (総時数 11 時間)

[下表における評価の観点：ア「音楽への関心・意欲・態度」イ「音楽的な感受や表現の工夫」ウ「表現の技能」エ「鑑賞の能力」]

ねらい		時数	主な学習活動	評価規準	評価の方法			
第1次	歌唱曲をいろいろな演奏形態で聴き比べ、それぞれの響きの美しさを味わったり、声の響きに気を付けて歌ったりする。	2	・声楽家による「赤とんぼ」「ふるさと」の独唱を聴き、豊かな響きについて知る。	長い間親しまれてきた唱歌や豊かな響きのある歌声に関心を深め聴いている。(ア・エ)	観察 学習プリント (鑑賞カード) 発表			
			・自分達の斉唱の録音を聴き、響きの違いを感じ取る。			・友達や自分の歌声に耳を傾け、響きに気を付けて歌っている。(ウ)	観察 学習プリント (鑑賞カード)	
第2次	声の出し方や、楽器の音色を工夫して、合唱したり合奏したりする。	4	・情景を思い浮かべ、響きに気を付けて「赤とんぼ」「ふるさと」を歌う。	様々な演奏形態を理解し、響きの違いに気を付けて聴くことができる。(エ)	観察 学習プリント (鑑賞カード)			
			・範唱CDによる「独唱」「重唱」「斉唱」「合唱」を聴き響きを聴き味わう。			・「ふるさと」の中声部・低声部を歌ったり、表現を工夫したりする。	歌詞の情景や曲想に合う歌い方を工夫している。(イ)	観察 学習プリント (鑑賞カード)
			・自分達の歌声の録音を聴き課題を見つける。			・響きを聴き合いながら、「ふるさと」を合唱したり表現を工夫したりする。	・重なり合いの響きを大切に表現を工夫している。(イ)	
・自分達の歌声の録音を聴き、表現に生かす。	・「風を切って」を、曲の感じをつかんで、のパートを歌ったり楽器を選んで演奏したりする。	楽器を選んで演奏する活動に興味をもち、進んで演奏している。(ア)	観察 学習プリント					
第3次	声や楽器の音色の特徴を生かし、その重なり合う響きを味わいながら表現する。	5	・「風を切って」のパートにふさわしい音色の楽器を選び演奏する。	音の重なりや響きに気を付け、楽器を選ぶことができる。(イ)	観察 学習プリント (鑑賞カード)			
			・自分達の演奏(録音)を聴き、課題を見つける。			・音色の重なりによる響きに気を付けて聴いている。(エ)	観察 発表 学習プリント (鑑賞カード)	
			・「ふるさと」の数団体の合唱団の演奏を聞き比べたりしながら、自分達の表現の構想を決めていく。			響きの明るさなどの違いに気づき聴くことができる。(エ)		観察 発表 自己評価
			・パートに分かれて練習し歌い方を工夫する。			自分達の歌声のよさをさらに伸ばすために工夫して表現している。(ア・イ・ウ)	観察 発表 自己評価	
・「ふるさと」の表現の工夫を確かめ合いながら合唱し、録音する。	情景を思い浮かべ、豊かな響きのある声で歌っている。(イ・ウ)	観察 自己評価						
・自分達の合唱の響きや表現の工夫について振り返る。	自分達の歌声の響きのよさや課題をつかんでいる。(エ)		観察 自己評価					
・「風を切って」を楽器の音色や重なり合う響きを聴き合って、バランスのよい合奏を工夫する。	基礎的な演奏技能を身に付けて演奏している。(ウ)	観察 自己評価						
・音の重なりや響きの美しさに気を付けて演奏を工夫している。(イ)	観察 学習プリント							
・「広い空の下で」を旋律の動きや歌詞の表す情景を感じ取って、範唱に合わせて歌う。		曲想を感じ取り、みんなの声と合わせて歌っている。(ウ)	観察 自己評価					
・曲想を生かしながら、グループ毎に二部合唱をする。	響きのある歌声で、曲想にあった歌い方を工夫して、合唱している。(ア・イ)	観察 自己評価						